

大東文化大学社会学研究所所報

No. 7 2026年3月

目 次

所長巻頭言 所長 塚本 正文	1
2023年度社会学研究所活動報告	2
マンガ・ビジュアル研究会 活動報告	4
自転車とツーリズム・まちづくり研究会 活動報告	6
醸造文化と地域振興研究会 活動報告	9
研究員の活動報告	11
研究所寄贈本	26
研究員紹介	27

社会学の懐の深さと学問の楽しさを再発見

社会学研究所所長 塚本 正文

7年目を迎える社会学研究所では、研究成果を学生や地域社会にも還元できるよう、多くの方に興味を持っていただけるテーマでシンポジウムを企画した。性別や人種を問わず、しかも幅広い世代から支持されるカルチャーの1つに漫画やアニメがある。一般社団法人日本動画協会が毎年発表する「アニメ産業レポート2025」によれば、アニメ産業が過去最高の3兆8,407億円に規模に達したと報じられている。本年度は、当研究所主催のシンポジウムとして「世界に飛び出す日本のアニメ」というテーマで、研究者だけでなく学生や地域の方にもご参加いただいた。アニメ制作のみならず、ゲーム産業との接続など広がりのある話題で、参加者の関心をひくことができる充実した内容であった。

社会学はその特徴の1つとして、人間社会が作る複雑な関係性や様々な出来事を広く対象分野としている。当研究所に所属している研究員各位の研究対象や興味関心も、実に幅広いと認識している。そこで、社会学研究所では、表象文化、地域社会、災害研究、企業活動、情報化、国家活動など、様々なテーマで研究員の皆さんより研究報告をしていただいた。私自身は、主に観光行政含めた財政学を中心に研究してきたので、このような近隣分野または異分野の研究報告に、自分の研究との繋がりを感じることで、新しい知見を得ることが多く、有益な時間を過ごすことができた。具体的な研究所全体の動きや、各研究員の活動内容は次ページ以降の紹介をご覧ください。

私は2年間の当研究所の所長職の中で、社会学が経済・歴史・文化・心理など多様な分野と結びつく学際的性格であり、それがこの研究所の研究報告や紀要論文集を通じて良い意味で学問の新しい展開に結びつくことを経験してきた。所長として2年間の任期を全うできたこと、様々な研究と出会えたことについて、研究部会長、運営委員をはじめ多くの研究員の皆様のご協力へ重ねてお礼申し上げる次第である。本当にありがとうございました。

2025年度 社会学研究所活動報告

運営委員会

- 2025年 4月17日 第1回運営委員会（板橋校舎3号館5階社会学研究所）
研究所の運営、事業、予算、人事に関して基本方針を確認した。
- 7月17日 第2回運営委員会（板橋校舎3号館5階ワークスペースI）
研究助成、予算執行状況、研究員人事等に関して審議を行った。
- 10月16日 第3回運営委員会（板橋校舎3号館5階ワークスペースI）
次年度の事業計画、予算案、紀要等に関して審議を行った。
- 2026年 3月5日 第4回運営委員会（板橋校舎3号館5階ワークスペースI）
本年度事業報告、次年度の計画と予算、研究員更新等に関して審議を行った。

勉強会（セミナー）

- テーマ：「ジェンダー目線の広告観察」
- 講演者： 小林美香氏(東京造形大学、九州大学非常勤講師)
- 開催日時： 2026年1月22日(土)14:30~16:00
- 開催会場： 板橋キャンパス3号館1階 112教室

シンポジウム

- 講演テーマ：「世界に飛び出す日本のアニメ」
- 講演者： 平澤直氏（アニメーションプロデューサー・アーチ株式会社社代表取締役・株式会社グラフィニカ代表取締役社長・株式会社 YAMATOWORKS 取締役・株式会社ゆめ太カンパニー取締役）
- 開催日時： 2025年11月29日（木）14：30～16：40
- 開催会場： 大東文化会館 K-302

研究報告会

- 第1回研究報告会「初期マンガにおける技術と形式の変化：北沢楽天に焦点を当てて」そして「先駆的な女性たち：忘れ去られた戦前の女性マンガ家の歴史を再構築する試みー加藤(山崎)武子を中心に」
- 2025年6月19日（木）16時30分～17時80分
- 講師：R.G.スチュワート教授 出席者：9名
- 第2回研究報告会「台北サイクルショー（2025.3）の調査から見たシェアサイクル普及の日台格差」
- 2025年7月17日（木）16時30分～17時80分

- 講師：野嶋剛研究員（本学教授） 出席者：14名
第3回研究報告会「第3回は、研究員疋田智氏によって、「震災（津波被害）における自転車の利用」
2025年9月25日（木）16時30分～17時80分
講師：疋田智研究員 出席者：13名
第4回研究報告会「震災からの復興・再生とイノベーションへの挑戦 宮城の名醸蔵 株式会社新澤醸造店」
2025年10月16日（木）16時30分～17時80分
講師：醸造文化と地域振興研究会 出席者：15名
第5回研究報告会「漢字情報処理の過去・現在・未来」
2025年11月20日（木）16時30分～17時80分
講師：上地宏一研究員（本学準教授） 出席者：12名
第6回研究報告会「公共政策から考える〈国家・市場・制度〉」
2026年1月22日（木）16時30分～17時80分
講師：八木原大研究員（本学専任講師） 出席者：8名

研究部会

- 2025年 5月 15日（木）17時00分～17時15分 第1回研究部会
本年度の定例会日程、研究所の事業などについて審議を行った。
2025年 9月 18日（木）13時30分～13時50分 第2回研究部会
次年度の事業方針、新規研究員入所などについて審議を行った。
2025年 11月13日（木）17時10分～17時25分 第3回研究部会
次年度の事業計画、予算案、紀要などについて審議を行った。
2025年 3月 19日（木） 第4回研究部会（開催予定）

刊行物

- 2026年 3月 『社会学研究所紀要』（第7号）、『社会学研究所所報』（No.7）発行

2025年度 マンガ・ビジュアル研究会 活動報告

所属研究員

井島 由佳（幹事・専任研究員）

スチュワート・ロナルド・ジェフリー（専任研究員）

川野 幸男（専任研究員）

野嶋 剛（専任研究員）

ダレン・マクドナルド（兼任研究員）

佐藤 勇一（専任研究員）

神部 恭久（専任研究員）

上西 雄太（専任研究員）

柳瀬 公（専任研究員）

研究会の開催

ミーティング最終

11月29日 メール会議にて

本年度の活動

社会学特殊講義Ⅱ オムニバス講義担当

社会学特殊講義Ⅱ オムニバス ゲスト講師招聘

社会学研究所 シンポジウム「世界に飛び出す日本のアニメ クールジャパンとしてのアニメの現状と可能性」開催協力及び講師招聘

社会学研究所 勉強会「広告観察を通してジェンダーを考える」講師招聘

研究成果の公表

1、社会学研究所紀要7号にてシンポジウム報告 登壇者 平澤直氏 アニメプロデューサー（アーチ株式会社代表取締役、株式会社グラフィニカ代表取締役社長）
講演 『社会学研究所紀要』,第7号,pp.-,2026.

2025年度 自転車とツーリズム・まちづくり研究会 活動報告

所属研究員

野嶋剛（幹事・専任研究員）

阿部英之助（専任研究員）

飯塚裕介（専任研究員）

塚本正文（専任研究員）

神部恭久（専任研究員）

小野田竜一（専任研究員）

井島由佳（専任研究員）

鶴田佳史（専任研究員）

小湊浩二（専任研究員）

八木原大（専任研究員）

疋田智（客員研究員）

活動目的

社会学の研究分野の一つである観光学、そして、本学科のコースの一つであるまちづくりは、いずれも近年ブームになっている自転車と密接な関係を有しています。サイクルツーリズムや自転車を生かしたまちづくりは一つの大きな社会的潮流になりつつあります。自転車は、健康増進や生きがい発見、脱炭素、SDGsなど現代社会の諸課題の解決にもつながり、日本政府や地方自治体も予算を投じて近年、サイクリング促進のための環境整備に努めている領域です。本研究所のメンバーである研究部員には幸い、自転車をめぐる諸問題に精通した教員が複数在籍しています。その力量を結集しながら、観光やまちづくりに関する社会学的課題と自転車を結びつける研究を深め、本研究所の存在意義をより高めることが期待されます。

研究会の開催

第1回 3月22日 特別研究費の支出項目について協議

第2回 9月18日 自転車利用環境向上会議のポスター発表について協議

第3回 10月31日 ポスター発表について直前ミーティング

第4回 11月12日 メール会議 1月24日セミナーについて打ち合わせ

セミナーおよび研究員の現地調査の実施、成果発表などについて

・10月31日～11月1日 自転車利用環境向上会議 in 名古屋のポスターセッションで研究会として発表を行い、野嶋、鶴田、塚本、阿部、飯塚、疋田が参加。

・1月24日 日常と非日常の自転車活用セミナー『日本の短距離モビリティの“共存共栄”は可能か』を大東文化会館で開催。参加者：およそ60名（対面のみ）、本研究会から疋田が登壇者、野嶋が司会、塚本、飯塚が会場準備・受付を担当した。

・2025年度社会学研究所紀要で疋田研究員が論文『世界のシェアサイクルにおける技術革新とシェア経済の現実的展望』を執筆。

・飯塚研究員調査出張

日程：2026年2月25日～27日

場所：大阪府・和歌山県

訪問先：シマノ自転車博物館、きのくに線サイクルトレイン

・鶴田研究員調査出張

日程：2025年9月6日～8日

場所：大阪府・和歌山県

訪問先：シマノ自転車博物館、きのくに線サイクルトレイン

・阿部研究員調査出張

日程：2025年9月27日～28日

場所：大阪府

訪問先：シマノ自転車博物館、大阪観光大学教育シンポジウム

・野嶋研究員調査出張

日程：2026年3月2～3日

場所：滋賀県

訪問先：ビワイチサイクリングルート視察、滋賀県長など

・野嶋、鶴田、塚本、阿部、飯塚各研究員調査出張

日程：2025年10月31日～11月1日

場所：愛知県名古屋市

訪問先：自転車利用環境向上会議 in 名古屋

2025年度 醸造文化と地域振興に関する研究会 活動報告

所属研究員

植野 一芳（幹事・専任研究員）

塚本 正文（専任研究員）

野嶋 剛（専任研究員）

山田 敏之（兼担研究員）

池田 剛士（兼担研究員）

寺澤 善実（兼任研究員）

中村 年春（客員研究員）

活動目的

本研究会は、日本各地の伝統的な醸造技術を継承、発展させてきた醸造所の歴史や慣習、醸造技術、醸造文化等について実証的な調査研究を行うとともに、醸造所がそれぞれの地域における産業や経済、生活、祭祀、文化、風習等への影響や貢献などについて研究を目的としている。

研究会の開催

第1回 本年度の活動について

6月28日 15時30分より 社会学研究所にて

第2回 本年度の調査に関する研究会報告および社会学研究所紀要にて論文の発表

ついて

9月20日 15時00分より 社会学研究所にて

第3回 社会学研究所主催・第4回研究会報告に向けた最終調整

10月3日 16時00分より 社会学研究所にて

なお、上記の他にも実地調査の前後に研究打ち合わせを行い、ヒアリング結果の取りまとめ、研究報告会発表準備、紀要論文の準備などを行ってきた。

研究成果の公表

1. 社会学研究所主催・第4回研究会にて報告

10月16日 3号館1階30113教室

報告テーマ「震災からの復興・再生とイノベーションへの挑戦 宮城の銘醸蔵 株式会社新澤醸造店」 報告者 中村年春、討論者 寺澤善実

2. 社会学研究所紀要にて「調査報告」の公表

中村年春・寺澤善実・山田敏之・植野一芳「宮城の老舗蔵「新澤酒造店川崎蔵」調査報告ー日本酒醸造蔵の震災復興とイノベーションに関する一事例ー」『社会学研究所紀要』,第7号,pp.69-76,2026.

研究員の活動報告 (2025年4月～2026年3月)

阿部 英之助

【論文】

阿部英之助,「社会教育主事講習の現状と課題」『社会教育職員研究』,全国社会教育職員養成研究連絡協議会,(32),pp.58-62,2025年5月

阿部英之助,「技術・職業教育」『日本の民主教育2025』,大月書店,pp.166-172,2026.

【招待講演】

阿部英之助「農業高校における教育的意義と課題」,日本職業教育学会・高校職業教育部会、
テーマ「高校職業教育の現状と課題」,2025年8月11日(東京・工学院大学)

阿部英之助「社会とつながる学びは、教室から始まる」、第30次旭丘全学教育研究集会、2026年
1月30日(神奈川・旭丘高校)

【学会報告】

阿部英之助「『酪農の未来』を託された若者たちの希望と苦悩—農業特別専攻科の教育的意義
と修了生の軌跡—」、日本職業教育学会・第6回全国大会(旧・日本産業教育学会・通算第
66回)2025年10月5日(山口県 YIC 情報ビジネス専門学校)

野嶋剛、阿部英之助、塚本正文、鶴田佳史、疋田智、飯塚裕介「自転車社会学の創出に向け
て」、第12回自転車利用環境向上会議、2025年10月31・11月1日(愛知県名古屋・岡谷鋼機
名古屋公会堂)

【活動報告】

藤島歴史公園「Hisu花」活用ワークショップ ファシリテーター、6月6日、8月8日、10月10日
(オンライン参加)、7月11日、9月3日、2月27日(対面参加)(山形県鶴岡市)

第6回鶴岡市市政報告会「“知られる”だけで、鶴岡は選ばれる—首都圏での鶴岡産米 PR から見
えたこと—」(2025年2月6日)(東京都江戸川区)

チャレンジ!!オープンガバナンス2025・ファイナルリスト「灯りの継承者プロジェクト—
Hisu花イルミネーションを舞台にした移住者交流企画—」(山形県鶴岡市・大東文化大学・
阿部ゼミ)(2026年3月8日・東京大学)

「スッポン養殖面白い発想 大東文化大藤島調査 有機農業や観光戦略結果発表」(荘内日報2026
年2月27日)

【学会討論】

Takeshi Ikeda “Comment on “Strategic ECSR with pollutant reduction technology improvements: A comparison of Cournot with Bertrand competition,”” 日本経済学会2025年度春季大会（於 中京大学）2025年5月

Takeshi Ikeda “Comment on “Environmental research joint ventures in a Cournot duopoly under emission taxes and environmental corporate social responsibility with managerial delegation,”” 2025年度日本応用経済学会春季大会（於 兵庫県立大学）2025年6月

Takeshi Ikeda “Comment on “Tariffs and Intellectual Property Right Protection by an Import Country,”” 2025年度日本応用経済学会秋季大会（於 北九州市立大学）2025年11月

【論文】

井島由佳 「暮田マキネの世界 —福祉 BL 呪縛からの解放—」 『社会学研究所紀要』, 6号, pp.51-64, 2025.

井島由佳 「BLにおける男性が行うケアの表象 —老後・介護について—」 『社会学研究所紀要』, 7号, pp.27-40, 2026.

【学会発表】

井島由佳 「BL にみるライフキャリアの表象-ライフコースと発達課題の視点-」 日本マンガ学会 第 24 回大会（米子市文化ホール）2025 年 6 月 28 日 口頭発表

【その他】

EFE News インタビュー回答 about 「Demon Slayer」

【日本語論文】

伊藤将人・包薩日娜「東京圏自治体における移住促進施策の位置づけと担当者の認識——全国自治体調査に基づく比較分析より」『都市社会研究』18, 2026. (掲載確定, 近刊)

伊藤将人「批判的モビリティ政策分析の試み——デジタル田園都市国家構想における女性・シングルマザー移住言説の分析」『国際公共経済研究』35, 2026. (掲載確定, 近刊)

伊藤将人「「移住議員」は地方議会・地方民主主義を救うのか——「よそ者」が議会にもたらず可能性と課題」『GLOCOM OPINION PAPER』38, pp. 1-4, 2026.

伊藤将人・水谷考嬉・阿部寛之・小林華子・包薩日娜「ワデュケーションによるウェルビーイングと地域との関係性の変容——秋田県鹿角市の事例から」『Journal of Wellbeing』, 1, pp. 94-

102, 2025.

伊藤将人「アンビバレントな移動」『群像』2026年1月号, 2025.

伊藤将人「関係人口の「見える化」の先へ——ふるさと住民登録制度に関する全国自治体調査結果より」『GLOCOM OPINION PAPER』35, pp. 1-4, 2025.

伊藤将人「「転勤」制度の岐路——新しい個人主義とジェンダー秩序の交差点」『世界』2025年10月号, 2025.

【英語論文】

Ito Masato, How Local Government Officials View the Competition to Attract Urban-to-Rural Migrants, *Inheritance of Rural Traditional Culture and Sustainable Community Development. Japan-Korea Rural Planning International Conference 2025*, 45-47, 2026.

【和書】

伊藤将人『移動と階級』講談社, 2025.

伊藤将人『戦後日本の地方移住政策史——地域開発と〈人材〉創出のポリティクス』春風社, 2025.

伊藤将人・鍋倉咲希・野村実・吉沢直・金磐石・鈴木修斗編『モビリティーズ研究のはじめかた——移動する人びとから社会を考える』明石書店, 2025.

植野 一芳

【論文等】

中村年春・寺澤善実・山田敏之・植野一芳「[調査報告]宮城の老舗蔵「新澤酒造店川崎蔵」調査報告—日本酒醸造蔵の震災復興とイノベーションに関する一事例—」『社会学研究所紀要』, 第7号, pp.69-76, 2026 (3月刊行予定) .

大澤 美和

【学会報告】

大澤美和「予算政策と政府の失敗」龍山会研究会、2025年5月31日、大東文化会館

小野田 竜一

【書籍（分担執筆：査読あり）】

小野田竜一「ヒトの社会」日本哺乳類学会(編)『哺乳類学の百科事典』丸善出版, pp.340-341, 2025

【学会発表・研究会発表】

小野田竜一「間接互惠状況で「評判が良い人にあえて利他的に振舞わない者」への評価」日本社会心理学会第66回大会 東京大学 2025年9月20,21日.

小野田竜一「他者全員が良い評判だった際に利他行動を取らない者の評判：選択的プレイの間接互惠性に関する実証と理論」日本人間行動進化学会第18回大会 日本女子大学 2025年11月29,30日.

香川 めい

【日本語雑誌論文】

香川めい「人びとはいつ働いているのか——『社会生活基本調査』を用いた労働時間のパターン化」『ESTRELA』380, pp.8-13, 2025.

香川めい「若年期の恋愛・結婚履歴の影響要因の系列分析——『家族に関する振り返り調査』を用いた検討②」『応用社会学研究』68, ページ未定, 2026.

香川めい「若年期の就業経歴の趨勢分析——系列分析を用いた方法論的検討」『大東文化大学紀要<社会科学>』64, ページ未定, 2026.

【和書・分担執筆】

香川めい「休講期間中の小学校で ICT 家庭学習課題を可能にした条件——地域や教育委員会の状況に注目して」苅谷剛彦・中村高康編『コロナ禍と日本の教育——行政・学校・家庭生活の社会学的分析』東京大学出版会, pp.17-36, 2025.

【学会発表】

尾嶋史章・香川めい・多喜弘文・平沢和司・西丸良一「高校普遍化以前の中学生の学力と意識——1964年国際数学教育調査 (FIMS) を用いて」日本教育社会学会大会第77回大会 (大阪大学 (大阪)) 2025年11月8日.

【その他】

シンポジウム企画・司会

「社会学は不平等にどう取り組めるのか——社会階層をめぐって」第98回日本社会学会大会 (一橋大学 (東京)) 2025年11月16日.

加藤 敦也

【論文】

加藤敦也「不登校という文脈における子どもの人権という観点の参照についての一考察——ある母親の語りを参考にして」『武蔵社会学論集 ソシオロジスト』第28巻, pp.1-29, 2026.

【書評】

加藤敦也「書評：田中佑弥著, 2024, 『学校に行かない子どもの社会史——不登校とフリー

スクールの源流』慶應義塾大学出版会。』『和光大学現代人間学部 現代人間学部紀要』第19巻,pp.1-4,2026.

上地 宏一

【研究成果公開】

Jigmo (字雲) フォント (2025年9月12日版)

<https://kamichikoichi.github.io/jigmo/>

近藤 和都

【和書】

永田大輔・近藤和都編『雑誌利用のメディア社会学——文化を可能にする「工夫」』ナカニシヤ出版, 2025年(共編著)

佐々木有輔・杵島和泉・Clara編『「見る場所」のメディア考古学——鳥取から日本映画史を描き重ねる』小取社, 2025年(分担執筆)

【学会報告】

谷島貫太・近藤和都・丸山友美・柴野京子「メディア研究にとって流通とはどのような問いか? : メディア空間の存在論に向けて」日本メディア学会春季大会(立命館大学), 2025年6月8日(問題提起者)

近藤和都「メディア研究についての雑誌研究」共立女子大学文芸学部月例研究集会, 2025年10月25日(報告者)

梅田拓也・日高良祐・今関裕太・永盛鷹司・近藤和都・藤下由香里「音、身体、メディア——ジョナサン・スターン特集合評会」『メディウム』第5号刊行記念研究会(同志社大学), 2025年11月2日(書評者)

【その他】

清単: 信息可視化的文化技艺与动画体验的变迁(「アニメージュとリスト——情報の可視化をめぐる文化技術とアニメ経験の変容」永田大輔・近藤和都編『雑誌利用のメディア社会学——文化を可能にする「工夫」』ナカニシヤ出版, 2025年の中国語訳)

佐藤 勇一

【学会発表】

佐藤勇一「メルロ＝ポンティ哲学のマルロー読解をめぐる——1940年代後半を中心に」メルロ＝ポンティ・サークル第31回大会(東北大学), 2025年9月21日.

【その他(オープンカレッジ)】

佐藤勇一「メルロ＝ポンティ哲学入門：哲学とは世界を見ることを学び直すこと」大東文化大学オープンカレッジ春期講座（大東文化大学地域連携センター、大東文化会館）、2025年5月8日,22日,6月5日。

【その他（体験授業）】

佐藤勇一「知を愛するということ」大学模擬授業体験（埼玉県立豊岡高等学校）、2025年11月18日。

【その他（研究活動）】

パリ、フランス国立図書館にて未完草稿調査,2024年8月18日～8月27日。メルロ＝ポンティ未刊草稿 NAF26991（VIII Notes de travail）の研究、および、フーコーの草稿 NAF28803(3)(Michel Foucault. Archives des années 1940 et 1950)の一部(Texte sur Merleau-Ponty)を集中的に研究。大東文化大学 大東文化大学特別研究費〈研究助成〉の支援を受けた。

佐藤 秀樹

【著書】

佐藤秀樹『先生、なんで環境のこと考えないといけないの?～“モヤモヤ、から始まる環境授業～』みらいパブリッシング,2026.(3月刊行予定)

【論文】

佐藤秀樹「生活に根ざす開発教育を求めて：大学教育におけるフィールドワークを活かした授業実践の試み」『開発教育』(72), pp.77-86,2025.

佐藤秀樹「バングラデシュにおめける環境教育と協働による市民環境リテラシー向上の戦略」『人間と環境』51(3), pp.15-23, 2025. ・佐藤秀樹「都市開発と環境保全の両立に向けた市民共創の可能性―千葉県流山市の事例を通じた考察―」『共生社会システム研究』19(1), pp.1-10, 2025.

【学会発表】

佐藤秀樹「「余白」をデザインする環境教育―スロー・ラーニングの視点からみる実践と理論の接点―」日本環境教育学会第36回年次大会(北海道), 2025/10/12.

スチュワート・ロナルド・ジェフリー

【著書（共著）フランス語】

Stewart, R., “Dans l’entre-deux-guerres, de Rakuten a Tezuka”, Guimet - musee national des arts asiatiques ed. *Manga tout un art! De la Tradition japonaise a la pop culture.* Guimet - musée national des arts asiatiques, Paris. pp.74-83, 2025.

【論文 日本語】

スチュワート R 「漫画史：清水勲と宮本大人による北澤楽天、日本初の近代的「漫画」、訳：Cole Schreiner (論文 Stewart, R. “Manga history: Shimizu Isao and Miyamoto Hirohito on Japan’s first modern ‘manga’ artist Kitazawa Rakuten” [初出] *Comics Forum*, 2014年06月の邦訳『マンガ・スタディーズ』(京都精華大学) 巻1, 2025年12月、ページ番号なし (全5頁) .

スチュワート R 「日本マンガにおける吹き出しと「漫符」の歴史の再考—20世紀前半の技術と他のメディアを中心に—」『社会学研究所紀要』第7号、2026年3月、pp.53-68.

【書籍英語版監修 英語】

Kyoto International Manga Museum & Kyoto Seika University International Manga Research Center ed.
What’s Manga? An Introduction to Japanese Comics. (English editing Supervisors: Stewart, R. & Yoo, S.)
Seigensha, 2025.

【学会発表 英語】

Stewart, R., “‘Buu’ & ‘Puu’: Towards a History of Flatulence in Manga—Expression and Comic Effect.” Joint Conference of the International Bande Dessinée Conference (IBDC) & International Graphic Novel and Comics Conference (IGNC), Belgian Comic Strip Center (Centre Belge de la Bande Dessinée), Brussels, June 24, 2025.

【翻訳】

スチュワート R (キャプションとニュース背景翻訳) 「共同通信配信 第13回しおどめ発 世相漫画展」、汐留メディアタワー3階ギャラリーウオーク、2025年10月1日～31日開催.

塚本 正文

【学会・シンポジウム報告等】

2025年10月31日 自転車とツーリズム・まちづくり研究について共同でポスターセッションに参加 (自転車利用環境向上会議 第12回)

【有識者として行政に協力】

2025年8月7日 「東京都 宿泊税の見直しに関する意見交換」へ有識者として参加 (東京都税局税制課)

鶴田 佳史

【共著】

鶴田佳史, 2025, 「環境経営」野村佐智代・山田雅俊・佐久間信夫編『環境経営要論』第2版, 創成

者2-20.

【研究ノート】

鶴田佳史,2025,「ステークホルダビリティの展開に関する私見ーサステナビリティ情報開示との関係からー」『環境創造』特別号,105-109.

【その他】

鶴田佳史,2025,「第三者コメント」『THREE HIGH ANNUAL REPORT OMOU 2024』株式会社スリーハイ:33.

仲井 圭二

【学会発表】

仲井圭二「令和6年能登半島地震による日本海沿岸部の津波の周波数特性」、第44回日本自然災害学会学術講演会（北海道教育大学）、2025年9月19日

【大東文化大学以外での教育】

就職作文の書き方講座、東京工科自動車大学校（東京都品川区、世田谷区）、2025年10月20日、30日
キャリアデザイン応用、駒沢大学（東京都世田谷区）、2025年度前後期各14回
小論文講座、新渡戸文化短期大学（東京都中野区）、2026年1月10日

【講演・研修】

仲井圭二「防災講演会」、鉄道会社、2025年5月27日
仲井圭二「整理収納アドバイザー2級認定講座」、ジュー ज्याカルチャーセンターイオンモール羽生（埼玉県羽生市）、2025年6月14日
仲井圭二「キャリアサポート研修」、生命保険会社、2025年6月20日～10月20日、11回）
仲井圭二「沿岸の長周期波に関する研究」、建設コンサルタント会社、2025年8月20日
仲井圭二「人生100年時代の働き方」、人事労務会館（東京都品川区）、2025年8月30日
仲井圭二「身の周りとお心を整えて生き生き働く」、テレビ番組制作会社、2025年9月12日
仲井圭二「人生百年時代の片づけ術」、八千代市東南公共センター（千葉県八千代市）、2025年9月26日
仲井圭二「防災講演会」、野田市リサイクルセンター（千葉県野田市）、2025年10月15日
仲井圭二「整理収納アドバイザー2級認定講座」、子供向け絵画教室、2025年10月31日、11月18日
仲井圭二「防災講習会」、八千代市高津自治会館（千葉県八千代市）、2025年11月8日
仲井圭二「潮汐に関する基礎知識」、国土交通省東北地方整備局仙台港湾空港技術調査事務所

(仙台市)、2025年11月28日

仲井圭二「潮汐に関する基礎知識」、国土交通省中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所
(広島市)、2025年12月11日

仲井圭二「防災講習会」、就労移行支援事業所、2025年12月29日

仲井圭二「フロントヤード改革」、一宮町役場 (千葉県一宮町)、2026年1月14日

仲井圭二「ハラスメント研修」、夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部 (千葉県大多喜町)、
2026年2月19、20日

【ワークショップ】

仲井圭二「消防・災害対応研修 避難所運営訓練」、千葉市役所 (千葉市)、2025年5月15日

仲井圭二「千葉市防災ライセンス・スキルアップ講座 マイ・タイムライン講師養成コース」、
千葉市役所 (千葉市)、2025年6月22日

仲井圭二「常代防災講座HUG」、君津市周南公民館 (千葉県君津市)、2025年11月22日

【指導】

千葉県内の高校の防災マニュアル改訂に関する指導、生浜高校 (千葉市)、2025年8月26日

千葉県内の高校の防災マニュアル改訂に関する指導、千葉特別支援学校 (千葉市)、2025年8月
26日

千葉県内の高校の防災マニュアル改訂に関する指導、清水高校 (千葉県野田市)、2025年9月3
日

中野 紀和

【論文他】

中野紀和「踊ることに魅せられた若者たちー『遊び』を手掛かりにー」『現在学研究』,第17
号,20-34.2026 (3月予定)

中村 年春

【著書】

日本消費者教育学会関東支部監修神山久美・中村年春・小野由美子編著

『新しい消費者教育 これからの消費生活を考える 第3版』慶應義塾大学出版会,
2026年2月.

【調査報告】

中村年春・寺澤善実・山田敏之・植野一芳「宮城の老舗蔵「新澤醸造店川崎蔵」

調査報告「日本酒醸造蔵の震災復興とイノベーションに関する一事例」 『社会学研究所紀要』第7号,pp.69-76,大東文化大学社会学研究所,2026年3月.

【その他報文】

中村年春「本誌特集を読んで〈12月号特集 消費者教育の現在〉 四者合労による消費者教育の展開」『生活協同組合研究』通巻601号,pp.73-74,公益財団法人生活協同組合総合研究所,2026年2月.

野嶋 剛

【日本語書籍】

野嶋剛『白球は海を渡る 台湾の中の日本野球』筑摩書房,2026.2

【外国書】

野嶋剛『故宮百話：百年博物館的政治力とブランド力従何而生？』典藏藝術出版（台湾）, 2025.9

疋田 智

【日本語論文】

疋田智『世界のシェアサイクルにおける技術革新とシェア経済の現実的展望 —蘭仏中における発展と破綻、日本が果たした役割—』大東文化大学社会学研究所紀要7号,pp.13-26,2026

【和書】

疋田智『カオス化する自転車社会（仮）』単著 旬報社 2026年3月刊行予定

疋田智『日本の論点』共著「《LUUPによる道路のカオス化》事故ライダーの5人に1人が飲酒運転」部分 文藝春秋社 2025年12月刊行

【講演・シンポジウム】

疋田智「電動モビリティの未来」「防災システムとエコタウンとは」“Bicycle E-Mobility City EXPO 2025”2025年6月11日、12日

疋田智「未来を開くイノベーション」東京都市大学 2025年6月19日

疋田智「自転車政策の国際比較」東京都市大学 2025年6月30日

疋田智「危険モビリティを読み解く」東京ベイバイシクル 日本自転車振興協会主催 2025年10月4日

疋田智「中村春吉とその時代」広島県呉市主催 2025年11月30日

疋田智「自転車青切符6つの類型」警視庁交通課主催 2025年12月1日

【ワークショップ、他】

疋田智 ワークショップ「震災後の自転車の活かし方」温泉ライダーin加賀 加賀市・加賀まれば
と懇談会主催 2025年6月15日
自転車利用環境向上会議 ポスター発表（大東大社会学研究所） 2025年10月31日
大東文化大学 サイクルツーリズム研究会富山ツーリング参加 2025年4月
大東文化大学 サイクルツーリズム研究会しまなみ海道視察 2025年11月
文化学園大学非常勤講師 交通社会学講義（14回）2025年4月～9月

【学術・研究以外の活動】

YouTube チャンネル『芝浦自転車研究所』開設（現在までに76回）
<https://www.youtube.com/@shibajiken>
TBS ラジオ『ミラクル・サイクル・ライフ』（日曜午後6時30分・大阪 ABC は月曜午後6時）パ
ーソナリティ 2025年4月～2026年3月（13年継続中）
引き続き雑誌連載
疋田智『サイスポ大学社会学部』（サイクルスポーツ）八重洲出版
疋田智『自転車で出かけよう』（交通安全ジャーナル）公益財団法人東京交通安全協会
疋田智『晴走雨読』（MobilityLife）ライジング出版
疋田智『漂流する自転車行政』（プレジデント On-line）プレジデント社

飯塚 裕介

【和書】

飯塚裕介（監修）『水上水道・下水道・水害対策（命と生活環境を支える日本のインフ
ラ図鑑）』金の星社，2026
飯塚裕介（監修）『交通道路・鉄道・空港・港湾（命と生活環境を支える日本のインフ
ラ図鑑）』金の星社，2026
飯塚裕介（監修）『エネルギー 電気・ガス・石油・再生可能エネルギー（命と生活環境
を支える日本のインフラ図鑑）』金の星社，2026
飯塚裕介（監修）『情報・通信放送・新聞・出版・インターネット（命と生活環境を支
える日本のインフラ図鑑）』金の星社，2026

【パンフレットおよびリーフレット】

（仮称）『高島平ゆめのまち産官学連携プロジェクト活動成果パンフレット』（株）UR都市機構，
2026年3月刊行予定
（仮称）『高島平観光マップ・リーフレット（グルメ編・寄り道スポット編・気軽に健康促進
編・人が繋がるコミュニティの場編・映え萌えスポット編）』，板橋区，2026年3月刊行予定

【学会発表】

飯塚裕介「文系学生と企業によるまちづくり実践—産学連携プロジェクトによる低未利用地活用」日本建築学会大会（九州大学） 2025年9月10日
野嶋剛・疋田智・塚本正文・阿部英之助・鶴田佳史・飯塚裕介，2025，「自転車社会学の創出に向けて」，第12回自転車利用環境向上会議（岡谷鋼機名古屋公会堂），2025年10月29日，ポスター発表・

【講演】

飯塚裕介「合同防災訓練のふりかえり」板橋区立新河岸小学校6年生総合学習 2025年5月8日
飯塚裕介「ゲームで学ぶタイムライン防災」板橋区立新河岸小学校6年生総合学習 2025年9月22日
飯塚裕介「防災を学まなぼう！～タイムラインで命を守る～」板橋区立新河岸小学校3年生総合学習 2025年9月22日
飯塚裕介「ゲームで学ぶ水害サバイバル術」板橋区立新河岸小学校5年生総合学習 2025年12月1日
飯塚裕介「川とともに生きる街どうつくる？～新河岸のまちづくりを考えよう～」板橋区立新河岸小学校6年生総合学習 2026年1月24日
飯塚裕介「スポンジ化する都市～人口減少時代の空き家とまちづくりのゆくえ～」板橋区立板橋グリーンカレッジ大学校 2025年11月5日

【コラム】

飯塚裕介「高島平、理想の暮らしはどこにある？～住民の声に耳を傾けて～」『高島平学:高島平を思考する地の知』第10巻第1号，2026年3月31日。

【シンポジウム】

「日本の短距離モビリティの“共存共栄”は可能か」大東文化会館，2026年1月24日（ポスター制作、会場）。

【実証実験】

パーソナルモビリティ実証実験，会場：高島平団地2-26-3号棟前広場，実施日：2025年9月29日。
お困りごとマッチング実証実験，会場：高島平地域センター，実施日：2025年10月26日

【地域イベント出展】

ブース出展「AR体験会」，旧高島第七小『棟下式』に「高島平ゆめのまち産官学連携プロジ

「AR体験会」を出展、会場：旧高島第七小、開催日2025年7月5日。
ブース出展「防災を学ぼう」、『高島平まつり』にオリジナル防災教育ゲームを出展、会場：
高島平地域センター、開催日：2025年10月26日。

【企業及び自治体との連携プロジェクト】

高島平ゆめのまち産官学連携プロジェクト、(株)UR都市機構・(株)トヨタモビリティ東京・
板橋区と連携して低未利用地活用策を模索。期間：2025年5月～2026年3月。
高島平メタ観光マップ作成プロジェクト、板橋区・(株)日建設計総研と連携してデジタルマッ
プ及びリーフレット5種を制作。期間：2025年6月～3月。

【メディア掲載】

地域生活情報番組『ジモトトピックス』、J:COM 2025年4月5日放送。
「産学連携Pが研究成果を発表」、高島平新聞2025年4月号8面。
「『みんなに寄り添う高島平団地』って？ 大学生が住民になりきって考えてみた、使われ
てない敷地の活用策」、東京新聞2025年6月17日22面。
「旧高島第七小で解体前イベント「棟下式」 大東文化大生によるAR体験会も」、板橋経済
新聞2025年7月11日。
「産学官連携プロジェクトを始動 大東文化大学」、高島平新聞2025年7月号7面。
「産学官連携Pがワークショップ 大東文化大学」、高島平新聞2025年8月号9面。
「高島平団地で次世代モビリティ一試乗会 イーパレットも」、板橋経済新聞2025年10月9日。
「【団地内でパーソナルモビリティ体験】産官学連携プロジェクトで」、高島平新聞2025年10
月号3面。
「防災を楽しく学ぶデイキャンプ」、高島平新聞2025年11月号11面。
「板橋・旧高島七小で防災イベント 外遊びの学びを防災のスキルへ」、板橋経済新聞2025年
12月23日。
「【「防災」を遊びながら学ぶ】体験型のデイキャンプ」、高島平新聞2026年1月号3面。

【その他】

アーバンデザインセンター高島平(UDCTak)ディレクター
板橋区老朽建築物等対策協議会委員
高島平学編集委員会委員
板橋区立新河岸小学校 iCS 委員

八木原 大

【日本語論文】

八木原大「GloBE ルールと国際課税秩序—租税支出概念の国際化と課税主権の再編—」『世界経済評論 World Economic Review』,第70巻2号,pp.80-89,2026.

【学会発表】

八木原大「国際課税秩序におけるソフトな制度的圧力と課税主権の調整—GloBE ルール下における各国の制度比較—」大洋州経済学会（大阪大学）2025年12月20日

柳瀬 公

【論文】

柳瀬公「若者の情報効用におけるプロスペクト理論の適用」『日本情報ディレクトリ学会誌』,第24号, 2026（投稿済み）

山口 みどり

【著書等】

山口みどり・周東美材共編『〈帝国〉と身体——ジェンダー史からの問い』白水社, 2026.

山口みどり「海を越える衣服の政治学——イギリス国教会と女性たちの「帝国」建設」山口みどり・周東美材共編『〈帝国〉と身体——ジェンダー史からの問い』白水社, pp.59-88,2026.

ルーシー・デラップ著, 山口みどり訳「フェミニストの夢、土地、そして植民地の権力」山口みどり・周東美材共編『〈帝国〉と身体——ジェンダー史からの問い』白水社, pp.221-246, 2026.

山口みどり「特集 ジェンダー史の授業実践を考える—『論点・ジェンダー史学』の編集方針と活用例—」『女性とジェンダーの歴史』,第13号,pp.1-8,2026.

書評 メアリー・ジョー・メイNZ/アン・ウォルトナー著, 三時眞貴子訳『家族の世界史』,『西洋史学』280号, pp.110-112,2026.

【学会発表等】

Midori Yamaguchi, “A Transnational Approach: Missionaries' Struggles over Tokyo and Women's University Degrees in Britain”, *Women and Education Reform in Japan* in honor of Joyce Goodman: A Transnational Discussion, ISCHE 46 Lille, 9 July 2025.

Midori Yamaguchi, “Supplced Women & Singing Priests: The Church and the Survival Strategies of Victorian Parsonages”, *Modern British History Seminar*, University of Cambridge, 16 Oct. 2025.

Midori Yamaguchi, 'England's Best' to Tokyo: Bishop Edward Bickersteth's Missionary Education Strategy and St Paul's Guild', *The History of Education Society Annual Conference 2025: Gender, Networks and Leadership in the History*

of Education, The Winchester Hotel and Spa, Winchester, 15 Nov. 2025.

Midori Yamaguchi, “‘Prosper the Work of Our Hands’: Gender, Clothing, and ‘Empire’ in the Society for the Propagation of the Gospel, 1860-1923”, The Clare Hall Colloquium, Clare Hall, University of Cambridge, 24 Feb. 2026.

山口みどり「第3回：「新しい女性」の誕生とイギリス社会——憧れと反発の背景を探る」オンライン連続講座「月に奔る」「新しい女よ、ダンジョンは生ける光の陰影へ：第一章（全三回）」, 2025年10月24日.

山田 敏之

【論文】

山田敏之「組織の双面性構築と高業績ワーク・システムの役割：ミクロ的基礎の視点」『実践経営』, No.62, pp.7-18, 2025.

山田敏之「イノベーション創造を導く双面的リーダーシップとチームの双面性：調整要因としてのリーダーのビジョン、チームへの一体感」『大東文化大学紀要』, 第 64 号, 2026 (近刊).

山田敏之「個人の双面性を促進する双面的組織文化：心理的エンパワーメント、高業績ワーク・システム、支援的リーダーシップの調整媒介モデル」『経営論集』, 47 号, 2026 (近刊).

【書籍所収論文】

Yamada, T. “Chapter 7 Fujifilm’s Business Structure Transformation and Dynamic Capabilities: An Analysis from a Micro-Foundations Perspective,” in Hayashi H. and Sakamoto, Y. (Eds.), *Strategic Management and Innovation Strategy: From the Perspective of Revisiting Dynamic Capabilities*, Springer, pp.151-182, 2025.

【調査報告】

中村年春・寺澤善実・山田敏之・植野一芳「宮城の老舗蔵「新澤酒造店川崎蔵」調査報告：日本酒醸造蔵の震災復興とイノベーションに関する一事例」『社会学研究所紀要』, 第7号, 2026 (近刊).

	寄贈本	寄贈者
1	イティハーサ1~15巻 水木知佳 集英社 1988年~1999年	小室俊明
2	イムリ1~26巻 三宅乱丈 エンターブレイン 2007年~2020年	〃
3	ベルセルク28巻~36巻 三浦建太郎 白泉社 2005年~2011年	〃
4	ベルセルク(冊子版)1~12巻 三浦建太郎 白泉社 2007年	〃
5	闇の守り人1~3巻 上橋菜穂子・結布 朝日新聞出版 2016年~2018年	〃
6	ルミとマヤとその周辺 ヤマザキマリ 講談社 2008年~2009年	〃
7	涼子さんの言うことには ヤマザキマリ 講談社 2010年	〃
8	2組のお友達。 一條裕子 小学館 1999年	〃
9	LA CALACA 澤井 健 講談社 2004年	〃
10	藤子不二雄論 Fと㊤の方程式 米沢嘉博 河出書房新社 2002年	〃

研究員紹介

所 長	塚本 正文
部 会 長	豊泉周治
専任研究員	阿部英之助 井島由佳 植野一芳 小野田竜一 表 昭浩 香川めい 川野幸男 上地宏一 上西雄太 小湊浩二 塚本正文 佐藤勇一 神部恭久 スチュワート・ロナルド・ジェフリー 鶴田佳史 豊泉周治 中野紀和 野嶋 剛 飯塚裕介 八木原大 柳瀬公 山口みどり
兼担研究員	山田敏之 ダレン・マクドナルド 池田剛士
兼任研究員	近藤和都 寺澤善実 大澤美和 加藤敦也 佐藤剛生 佐藤秀樹 仲井圭二 伊藤将人
客員研究員	疋田 智 中村年春

大東文化大学社会学研究所所報 No.7

2026年3月31日発行

編集発行・印刷 ©大東文化大学社会学研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1

Tel: (03)5399-7394